

## 『世界の架け橋となる沖縄観光』

興南学園興南中学校  
2年生 仲松 錬孟

私は、沖縄に生まれ、沖縄で育ちましたが、この島がたどった歴史や文化についてあまり知りませんでした。また自分から積極的に知ろうとすることもありませんでした。しかし、興南中学校に入学し、沖縄県を訪れる修学旅行生に首里城ガイドを行うアクト部に入部したことがきっかけで、私の沖縄への見方は変化していきました。

私たちの部活動では、毎年多くの修学旅行生を受け入れます。私たちにとったら毎回行うガイドでも、県外の生徒たちにとっては、もしかしたら人生で初めての沖縄との出会いの場になるかもしれません。そんな大切な役割を私たちが担っていると考えると、私自身が正しい知識をつけ、おもてなしをしないといけないと考えるようになりました。

私たちがガイドする首里城は沖縄を代表する観光名所で、二千円札にも描かれている守礼門や歴史の教科書にも登場する万国津梁の鐘などがあります。それだけではなく、琉球王国の歴史や沖縄戦の傷跡、そこから復興をとげた様子など、沖縄の過去と現在を知ることができる場所でもあります。そうした事実も、このガイド活動を始めるまでは知りませんでした。

沖縄は 1429 年から 1879 年までの約 450 年間にわたり、「琉球」とよばれる独立国でした。日本をはじめ、中国、朝鮮、東南アジアの国々と貿易を行い、世界の様々な文化を取り入れながら独自の「琉球文化」を生みだしていきました。守礼門に掲げられている扁額には「守礼之邦」という言葉が刻まれているように、平和を愛し、礼節を重んじる国として、世界とつながっていました。かつて首里城正殿に掲げられた万国津梁の鐘には次のような言葉が刻まれています。

琉球国は南海の勝地にして	三韓の秀をあつめ
大明をもって輔車となし	日域をもって唇齒となす
この二つの中間にありて	湧出せる蓬菜の島なり
舟楫をもって万国の津梁となし	異産至宝は十方刹に充滿せり

これは「琉球は地理的にアジアの重要な位置にあり、世界をつなぐ架け橋として発展してきた」ということを意味しています。特に中国との関係も深く、琉球王国の国王が変わるときには冊封使節団がこの島を訪れ、その度に首里城では歌や踊り、宮殿料理などでもてなし

できました。そのような歴史をたどりながら、独自の芸能や文化が発展していったそうです。私たちの周りに現在でも残されている文化が、当時の人々から大切に受け継がれてきたものなのだと気付くことができました。沖縄は小さな島ですが、そこに住む人たちの力によって、広い世界をつなぐ重要な役割を担ってきたのだと、首里城を通じて知ることになったのです。

しかし、その沖縄を取り巻く今の世界は不安定な状態になりつつあります。私の住む地域にも基地があり、最近のニュースを見ていると、いつか自分も戦争に巻き込まれてしまうのではないかと不安に感じるようになってきました。私たちがガイドする首里城も、かつて沖縄戦で徹底的に破壊され、戦後に再建されたものです。自分が暮らす町や毎日過ごす学校も、いつか戦争によって破壊されてしまう時がくるのではないかと考えることもあります。琉球と深い関わりのあったアジアの国々との関係が今後どうなっていくのかとても心配です。

一方で、沖縄を訪れる外国人観光客が増え続けています。最近、首里城をガイドしているとたくさんの外国人に出会います。私はそのような外国から訪れる観光客にも、言葉の壁を越えて楽しむことができるテーマパークを作りたいと考えるようになりました。それは琉球王国時代にタイムスリップし、沖縄に受け継がれた「おもてなしの心」を体感できるテーマパークです。

そこでは国王や王妃、首里城内で働く役人、歌や踊りでもてなす人などがキャストとして登場し、当時の琉球で行われていた「おもてなし」の数々を体験することができます。また宮廷料理などもレストランで食べることができ、時には神女たちがお祈りをささげてくれることもあります。さらに、城下町では庶民の暮らしを学びながら、泡盛作りや紅型などの伝統工芸も体験することができます。かつての琉球王国のように、様々な国の人が入り混じる、世界の架け橋となるそんなテーマパークを作りたいです。

私は中学生になり、今まで知らなかったことをたくさん知るようになりました。新しく知ったことには良いことも悪いこともあります。琉球の豊かな歴史だけでなく、世界で今おこっている問題や、基地をかかえる沖縄が置かれている現状もです。

しかし、私たちには先人たちが築いた、おもてなしの心、礼節を重んじる心、平和を愛する心が受け継がれているはずです。かつて琉球がそうであったように、世界の架け橋になるための力がここ沖縄にあるのだと、万国津梁の鐘が今に伝えてくれているような気がするのです。その現在の架け橋となる力こそが「沖縄観光のもつ力」なのだと思います。まだまだテーマパークの完成は先になりそうですが、私も沖縄観光を担う一員として、これからも

首里城ガイドを通し、世界をつなぐ小さな架け橋になれるように頑張っていこうと思います。